

平成 26 年度 第 2 回 静岡市市民活動促進協議会 会議概要

- 1 開催日時 平成 26 年 5 月 26 日（月） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分
- 2 開催場所 札の辻ビル 審査会室 2
- 3 出席者 <出席委員>大西会長 山本副会長 黒田委員 小林委員
津富委員 増田委員 原田委員
<欠席委員>井野委員 遠藤委員 大棟委員 日詰委員
<事務局> 杉山男女参画・市民協働推進課長 長田主幹兼係長
池田主査 平野主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事
第 3 次市民活動促進基本計画の「答申案」について
- 6 会議内容要約
 - (1) 開会 杉山男女参画・市民協働推進課長挨拶
 - (2) 議事 大西会長挨拶

事務局

- 1 答申案の概要等について説明。

原田委員

現行の第 2 次計画との関連、例えば、文書の引用等はどれくらいありますか？

事務局

施策の柱の 4「知らせる」については、全て新規で追加しています。施策の柱の 1・2・3 については、第 2 次計画における課題のうち、まだ解決しきれないものもあるため、同様の内容が記載されていることもあります。

今回、提示した「答申案」をたたき台として、ご議論ください。

大西会長

文書表現について、確認させてください。

1 点目は、「仕組み」という言葉が、漢字であったり、カタカナであったりするので、特段の問題がなければ、統一してください。

2 点目は、取組の方向性（1）市民活動そのものを理解してもらうための取組の中で、「顕彰」について触れているが、具体的な施策例には記載が無いため、顕彰制度について触れて

おくべきだと思う。

事務局

文書表現につきまして、「取組み」には漢字で統一します。

「顕彰」についての載せ方は、施策の柱のうち、1「やってみる」が良いか、4「知らせる」が良いのかも含め検討します。

津富委員

「顕彰」というものは、芽を出すというよりも、ある程度成長して木になった状態が対象になると思われるため、1「やってみる」でいいのかなと思います。

他に具体的な施策例をみると「参加」について記載されていますが、取組の方向性（1）を見ても参加について触れられていないため、変更が必要であると思います。

参加について他の自治体の例ですが、以前、三重県で「^{うま}美し国おこし・三重」といった取組みがあり、「3人県民が手を挙げれば支援します。」と言って、色々な活動機会を提供したり、活動に対するアドバイスをしていたりしていました。

他に長野市の社会福祉協議会が、「まちの縁側推進プロジェクト」と言って、「まちの縁側5,000ヶ所を目指して」ということで、素敵な縁側があるお家で、おもてなしをしてもらるといった取組みをしていました。

こういった色々な人が気軽に参加できる枠組みをつくる必要があると思います。そういったものが「やってみる」に含まれると思います。

原田委員が取り組まれている「くれば」も1つの良い事例になると思います。

大西会長

番町と清水の市民活動センターをどういう風にご利用していくのか。といったことを、津富委員からご提言いただいたことと絡めて、検討していく必要もあります。

今後、箱モノは多分作れないと思うので、今ある両センター活用を充実させていくことが、ますます重要になると思われます。

津富委員

先程、申し上げましたが、ハードを増やすことは限界が来ているので、街にあるものを資源としてどう使っていくのか。それが市民活動の資源になっていくと思います。

山本副会長

すでに市民活動センターで相談業務を受けていて窓口はあるため、そのことを前面に出すための広報も大切だと思います。

津富委員

三重県の場合非常に大きな運動として全県的に取り組まれています。ただ相談センターを設けるとかでなくて。

山本副会長

受け身で待つだけじゃなくてですね。

津富委員

県知事が先頭に立って、色々とアピールされた結果ですね。

山本副会長

次期基本計画は、第2次基本計画を踏まえて、積み重ねるものだと思いますが、今回、施策の4本の柱が循環するということが、1つのポイントになると思います。

その場合、1番始めは「知らせる」になる方が良いと思います。

また、「顕彰」については、「深める」のところが良いと思います。深めた結果、良い深まり方をしていれば、顕彰に値するのではないかという印象を受けています。

黒田委員

感想に近いのですが、答申案の冒頭部分で、「草原の住民が」というところがあるんですけど、これだと「草原を森林にするのかな。」という印象を受けるので、「大地が」というところから始めて、「草原の住民」というところをあまり強調しなくてもいいのかなって思いました。大地があって芽を育てて木を育てて、森林にするという流れが良いと思います。

もう一つは施策の柱で、4本の柱が循環していくということは良いと思います。

今回の答申案で、1つの「施策の柱」→2つの「取組の方向性」→いくつかの「具体的な施策例」といった作りになっていますが、それぞれのレベル感やつぶの大きさの違いが分かりにくいので、メリハリを付けてください。

山本副会長

私にも全体がフラットに見えてしまっています。循環というイメージを明確に伝えないと、どうして、一つ一つの施策を別々に進めるといったイメージに固定されてしまうような気がしています。

ステップアップとか、循環とかを感じさせるような具体性を盛り込まないと、「今までどおりだね。」という印象を与えてしまうような気がしています。

大西会長

ハッキリさせた方がよいと思うのは、黒田委員ご指摘の「施策の柱と具体的な施策例をどの程度まで、具体的に表すのか。」とですね。

事務局のご意見を教えていただけますか。

事務局

あまり具体的な事業は入れないように考えています。具体的な内容を答申に書きますと、それに縛られてしまう可能性があるのです。ただ、事業を例示した方が分かりやすくはなると思っています。

黒田委員

体系図は具体的な施策を方向性にして、細目についてはもうちょっとわかりやすく目で見えて分かりやすくして出せば良いと思います。体系図は方向性っていう形で。

もう一点は、1次計画、2次計画あって、それを踏まえた次期の3次計画となると思うので、これまでの成果も載せていった方が良く思う。

例えば、1次と2次計画を実施した結果、「市民活動がこれだけ進みました。」ということ踏まえての第3次です。というところにも触れた方が良く思います。

事務局

「現状と課題」に載せていくよう調整します。

大西会長

この答申案では、第2章か第3章で書き込まれるといったイメージになるということですね。これまでの1次計画と2次計画の指標の変化は確認する必要がありますね。

それと「質」の部分もどうするのかっていうのは、確か以前も話題にあがりましたが、どういうような指標を作るのが非常に難しいですね。

事務局

施策の柱 1 「やってみる」について説明。

大西会長

只今、説明いただいたうち、第2章から第4章までについて、協議会からの意見を盛り込むことはできますか？

事務局

ご意見をいただこうと思っています。

次の協議会には「指標」についてご意見を伺いたいと思っています。

津富委員

過去に私が関わった静岡県教育委員会の青少年問題協議会での方針は、具体的な例示をあげて方針を示したりしました。例えば、「〇〇市での取組」とか、「ヨーロッパの〇〇での事例」といった具合に。

これは、抽象度の高いものだけ見てもイメージがわからないし、あまり具体的なことを提案しとして書くとそれに縛られてしまうという難しさはありますが。

事務局

イメージを持っていただくため、先進事例を示す方が良くということですね。

津富委員

実際に我々が答申を出した際、教育委員会での事例を載せたことで、市町に伝える際、イメージが伝わりやすくなったと思います。そういうやり方もあると思っています。

大西会長

一般の市民の方が読まれるっていうことを考えますと、この議論に関わったことがない方にお伝えすることは、なかなか難しいと思う。事務局、いかがでしょう津富委員のご提案に対して、対応は可能でしょうか？

事務局

まずは、答申案をいただき、具体的な計画書は作成するという流れでいかがでしょうか？
答申案では少し大まかな提案をいただくということで。

津富委員

「よその市がやっているから、静岡市でもやらなきゃいけない。」という訳ではないのですが、抽象的な言葉で書いてあるだけでは伝わらないと思うので、具体例があればと思います。

事務局

協議会からは「例えばこんなこと」という例示をいただくということで。

山本副会長

確認ですが、第1章目指す姿「全員参加のまちづくり」の5行目に「市民活動団体の自律」と書かれていまして、ジリツのリツが「律」になっているんですけど、これはあえて「立」ではなく、「律」にしているのでしょうか？

事務局

そうです。あえて「自律」と表記しています。

大西会長

今までもこの「自律」を使ってきましたよね。

津富委員

「自律」と「自立」では、意味が違ってきますよね。

大西会長

英語でいうと **independent** ですよ。

自律は **autonomy** とか **self reliant** とかそういう、意味が英語だとまったく違いますよね。

事務局

大学生が仕送りもらわないで自力で生活していくより強い感じの意味で「自律」を使っています。

大西会長

自立だと経済的な意味が強調されますけど、自律だと主体性というか自分でマネージメン

トして運営していくというイメージがありますね。

山本副会長

分かりました。ありがとうございます。

黒田委員

体系図の目指す姿の「全員参加のまちづくり」の説明のところで、『全員とは』の説明文で、「NPO、学校、病院、福祉施設、企業等、市役所」と書いてありますが、「企業、市役所等」に変えた方が良いと思います。「等」は1番最後に付けるものだから、ここはしっかりとしません。

事務局

NPO や企業や色々な皆さま＋市役所という意味で、等の後に市役所を置いています。

黒田委員

「全員とは」という括りは、「静岡市を良くする活動に関わるすべての方」という言い方をしているので、並列の方が良いと思います。

事務局

分かりました。並列の表現に変更します。

大西会長

この「全員」という言葉が何箇所か出てきていますが、
全員の例示をする場合、「NPO、学校、病院、福祉施設、企業、市役所等」といった具合にちゃんと全部表示した方が良いと思います。端折って表示されている箇所もあるため。

事務局

ご指摘のとおり全部載せるか、もしくは「以下全員とする。」等の工夫をします。

大西会長

1つ目の柱「やってみる」についての議論をまとめます。(以下4点。)

- ・「顕彰」については、他の柱に移す。
- ・津富委員からのご提言の「手を挙げた団体が活動を始めやすくなるよう。」市民活動センターの有効活用について触れる。
- ・「施策の柱」、「施策の方向性」、「具体的な施策例」について、他の施策の柱も含めてレベル感を合わせる。
- ・基本計画策定時には、具体的な事例を盛り込んでいく。

事務局

施策の柱 2「深める」について説明。

山本副会長

先程の「自律」にメッセージが含まれていることが理解出来ましたので、2「深める」にも「市民活動の自立を支える環境づくり」中にも自律性を損なうことがないようという、「自立」よりも「自律」といった、「各市民活動団体が当事者意識を持つべき。」ということ強く前に押し出す方がいいのではないのかなと思いました。

また、「概要」の終わりの部分、「市民活動団体が、促進の施策に依存し、自立性を損なうことがないようという配慮する必要があります。」という文章で、「配慮する」という優しい言葉が使われていますが、配慮ではなく「依存しては、もう未来がないですよ。」と私としては強く言いたいと思います。

他の施策の柱で、「やってみる」とかいう段階では、「配慮」くらいでもいいのかもしれませんが、ここの柱は「深める」であるため、ある程度、強く社会の中での立ち位置をしっかりさせるという段階なってきたらと思います。

津富委員

最初の施策の柱の「やってみる」のところで気軽に手を挙げるというのはとても重要だと思う。三重県の例ですが、3人集まれば市民団体として活動ができているという取組みは非常に良いと思います。

また、団体毎、自分達で税理士さんを確保して、経理や納税をキチンとやる。それができないとその団体は事務の能力が無いのではないかとわかってしまう。これでは効率が悪いと思います。

例えば、市民活動センターの様な中間支援組織が、助言だけに留まるのではなく、一定のお金を収めると、そこで経理や税務や労務について支援を受けられるといった仕組みが必要であると思います。その方が、小さい規模のNPOも組織の力を活動に注ぎ込める。

大西会長

そうですね。今の津富委員のご意見は、ここに書かれていることを、さらに一步進めた形になるものですね。このことは良い取組みになると思います。

黒田委員

環境整備というか、より応援する仕組みは必要であると思います。

立ち上げの支援になると、ちょっと意味が違う気がします。

山本副会長

活動を始めて軌道に乗るまでの間の段階の1段目と2段目の段差が結構高いですね。

山本副会長

津富委員のおっしゃった「お金を一定額収める」ということが、とても良いと思いました。市民活動団体の方は、「管理費」について自覚を持ったほうが良いと思います。無料で税務や労務の支援を受けるとコストの意識が欠けてしまい、団体の規模が大きくなった際、始めて管理に膨大なコストが掛かることに気づくことになってしまう恐れがあるため。

黒田委員

話が広がりますが、市民活動団体は通常、会費を集めると思います。会員が集まり、会費の収入が増えることは、一種の公益性を満たすことだと思います。

この会員や会費が集まることと、市が活動を支援する仕組みを連動することができれば、活動を始め軌道に載せるための階段も低くなっていくと感じています。

これは、顕彰制度にもつながるはなしだと思います。

小林委員

「プロボノ」という言葉がでましたが、どういった意味ですか？

事務局

「プロボノ」について説明。(各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして、社会貢献するボランティア活動全般。)

山本副会長

「プロボノ」は、海外では流通している言葉らしく、ラテン語の「公共善のために」が語源。税理士などの士業の方が専門知識を提供したり、広告代理店の社員がボランティアで、市民活動団体の広報の作成をお手伝いするなどが事例としてあげられます。

大西会長

「プロボノ」については、用語説明を加えた方が良いですね。

津富委員

「ファンドレイジング」についても用語説明をお願いします。

事務局

「プロボノ」と「ファンドレイジング」について、用語説明を入れます。

津富委員

プロボノを活用するということは、市民活動団体が無料で専門知識を活用することですが、税理士がプロボノとして、団体の運営に参加してくれる場合は問題無いと思います。しかし、プロボノは簡単には見つけられませんから、税理士は、原則としては、お金を払って雇うべきだと思っています。ただし、税理士の中には市民活動の財務諸表について詳しくない方もいたりします。ですから、市民活動センターなどの中間支援組織が、各団体からお金を集めて、ファンドレイジングの一環として税理士に経理をみてもらうといった仕掛けを作ることができれば良いと思います。

大西会長

黒田委員のご所属の「SOHO しずおか」では、市民活動団体の方がいらしたりしますか？

黒田委員

市民活動団体の方は、あまりいらっしゃいません。

別な話になりますが、「目指す姿」「市民活動の8年後の姿」「全員参加のまちづくり」にあります「自律」と、体系図の「深める」にある「自立」を意識して分けるのであれば、その理由をしっかりと示した方が良いと思います。

全体的には自ら律するという意味の「自律」が合うと思いますので、あえて「自立」を使う場面があるのであれば、使い分けを示すべきだと思います。

大西会長

「自律」と「自立」の違いについても、プロボノとかファンドレイジングと同じ様に、用語説明をいれてください。

事務局

分かりました。他の言葉も含めて、必要であると思うものには、用語説明を入れていきます。

大西会長

2つ目の柱「深める」についての議論をまとめます。(以下3点。)

- ・市民活動団体の財務、税務、労務関係をアウトソーシングできる仕組みにお金を払う。又は地域規模でファンドレイジングを活躍できるような枠組みを作っていくことの検討を行う。
- ・津富委員からのご提案で、静岡市独自の市民活動団体の格付けをどうするか。
これについては、今後、引き続き検討の余地があります。事務局からもアイデアをいただきたい。
- ・用語について、「プロボノ」、「ファンドレイジング」、「自律と自立」について解説を入れる。

事務局

3つ目の柱「つなげる」について説明。

(用語確認「活かす」の表記を統一することを確認。)

山本副会長

協働というのは、NPOと市に限らないことはご承知のとおりです。

取組の方向性で、協働事業提案制度(協働パイロット事業)が一番始めにきてしまうと、行政との協働が一番であるという印象を与えてしまいます。比重が違うと思います。

色々なセクターとの協働が「全員参加のまちづくり」に繋がる。「企業とNPOとの協働」「NPO同士の協働」を第1にすべきだと思います。

津富委員

「場づくり」の方が先に来るべきでは。NPOが企業と協働したくても、企業との出会いの場がないことが現実であると思います。皆さんが気軽に集まって、市民活動に対して気軽に話せる場が必要となっています。自治会や中学校区などで、企業も参加し話し合いができる場があるとなお良いと思います。

「場づくり」が先に来ないと協働のしようがないのでは。

大西会長

イベントを開催して集まるといったイメージですか？

津富委員

大きなイベントで無くても良くて、オープンスペースの様な所に集まって知恵を出し合う会を開催するイメージです。

原田委員が団塊世代を中心にやられている活動がこれにあたり、これを他の世代にも拡大していく仕掛けが有効であると思います。

山本副会長

1回限りのイベント開催では、お互いに掘り起こせないと思います。

どんなセクターであるかに捕らわれず、同じ議題でテーブルを囲もうという集まりが静岡でも出来てきていますが、これも回を重ねていくうちに「自分達の課題を外に発信していくというのはどういったことなのか。」「自分の知らないセクターの事を段々知ってきて良い提案が生まれてくる。」という風に変化していく。

“場を育てる”ことが大切であり、一度限りのイベントの開催も必要だが、定例的な集まりも重要であると思います。

津富委員

三重県では、「美し国おこし・三重」と言って、3人いれば登録でき、色々な支援をしてもらえる市民活動支援制度があります。三重県の取組みは、物理的な居場所づくりでは無く、活動の発表の場を一緒にさがしてくれるといった支援です。

黒田委員

中間支援組織以外の第三者機関とあるが、これは具体的に何ですか？

事務局

以前のご議論の中でありました「市民ファンド」や「シンクタンク」を指しています。

中間支援組織とは、清水と番町の市民活動センターを指します。

黒田委員

「(2) 新しく協働事業を創出するための取組」のところで、「市民に広く呼び掛け」とありますが、呼び掛けよりも「周知」という言葉を使って再検討した方が良いと思います。

津富委員

中間支援組織（市民活動センター）が、機能を強化しながら、「市民ファンド」や「シンクタンク」を運営することが効率的だと思います。

事務局

静岡市において「市民ファンド」や「シンクタンク」を運営することは、規模の面から難しいのではないのでしょうか。

大西会長

「具体的な施策例」(2) 中間支援組織以外の中立的な第三者機関の見直しが必要となります。

山本副会長

先程、専門家集団を作って、有料でサービスを取り入れることと、(2) のイメージが重なります。市民動センターが全て補うのではなく、専門家の知識を必要に応じて、団体に届ける役割が大切であると感じています。

今あるサービス以外にも、さらにマネジメント支援や地域ファンドの創設まで広げていけたら良いと思います。

大西会長

「つなげる」という観点で、市職員に対しての啓発を行っていくという取組みも含まれていますか？

事務局

市職員に対しての啓発についても、分かりやすく載せるようにします。

増田委員

取組の方向性の(1)のタイトル「協働事業提案制度の充実」とありますが、内容的には市民活動団体と市の双方の理解を深めることが主なため、充実といった視点よりも「相互の理解を深める協働事業提案制度」が良いと思います。

大西会長

今のご意見に関連して、先程、山本副会長から(1) 協働事業提案制度の充実と(2) 新しく協働事業を創出するための取組の順番を入れ替えた方や良いとのご指摘がありました。これについて、いかがですか？

事務局

(1) は、「市としての取組」について、(2) は、「相互や全体に関するも」といった色を濃くして表現してみます。

山本副会長

他の項目は方向性を記載しているが、パイロット事業(協働提案制度)については、とても具体的な表現になっているが良いですか？

事務局

市が実施している協働提案事業としては、「協働パイロット事業」と「協働市場」の二つで

あり、時期計画を実施していく中で、新たなモノやより良いモノに協働提案制度をリニューアルする必要もあり、多少強調した表現としています。

津富委員

確認ですが、「協働」といった場合、市民活動団体と行政の協働を指していると思いますが、行政の入らない協働もあり、本計画の中での「協働」は、どちらの意味で使っていますか？

事務局

「協働」という言葉には、市民活動団体同士や市民活動団体と企業の CSR 活動との連携等も含めた意味で使っています。

大西会長

2次計画では、広義と狭義の意味での協働についての説明がありました。次期計画でも説明があった方が良くと思います。

増田委員

具体的な施策例の（3）企業と NPO との関係を近づける取組と（4）NPO と地縁組織をつなぐ取組の文章中の「関係を近づける」と「つなぐ」は、全く別な意味になりますか？それぞれ表現を変えてある理由はありますか？

事務局

（3）と（4）の言葉は、委員の皆さまのワークショップにおけるご意見をそのまま記載させていただいており、並べて見ますと同じ様な表現になっていますので整理します。

山本副会長

「関係を近づける」と「つなぐ」のとの違いとしましては、地縁組織と NPO は、フラットな関係が構築されていたりして「つなぐ」という表現が合っていて、企業と NPO は、委託関係があったりして、関係を近づけることを頑張りたいといった意味で、「関係を近づける」が合っていると思います。

大西会長

- 3つ目の柱「つなげる」についての議論をまとめます。（以下4点）
- ・「協働」の意味を含めて、取組の方向性（1）（2）の順序の入れ替えも含めて整理していただきたい。
 - ・「場づくり」についてもご検討いただきたい。ただし具体例等は計画書で表現を。
 - ・中間支援組織と第三者機関の区別について整理していただきたい。
 - ・市職員への啓発を含めた協働事業提案制度を表現していただきたい。

山本副会長

「（1）行政の NPO に対するサポート体制を強化する取組」については、「協働に対するサポート体制」なのか、それとも「行政との協働に対するサポート体制」なのでしょうか？

事務局

広義の意味でのサポート体制を示しています。このことがより伝わりやすい様に表現方法を検討します。

大西会長

確認ですが、先程、増田委員からご指摘のあった具体的な施策例（３）（４）の表現は変えた方が良いでしょうか？

増田委員

現状の企業とNPOの関係性がどうであるかを理解した上で、再度、読み返してみると「近づける」と「つなぐ」が良いと思いますが、その理解が足りないと「なぜ違うか」と思ってしまうのではないのでしょうか？

大西会長

一般の市民の方にご理解いただくためには、同じ表現にした方がいいですね。

次期計画書策定時に具体例を示し、さらに分かりやすくしていただき、答申案では「つなぐ」という表現にしたいと思います。

事務局

企業－NPO、NPO－地縁組織といった順番も考慮して、表現を整理したいと思います。

ただ、基本的には市民活動の支援ですので、NPOを先にくるようにしてみます。

事務局

4つ目の柱「知らせる」について説明。

大西会長

この「知らせる」が4本の柱のうち、1番始めにくるということで良いですね。

事務局

前回の協議会でのご議論も踏まえ、1番始めにくるということで理解しています。

津富委員

具体的な施策例の（３）にある「電子掲示板」は、市民活動センターの電子版というものをイメージしていると思うのですが、「出会う場所」は沢山あった方が良く、こまめに場づくりをする施策が必要であると思います。

長野市の社協の「まちの縁側推進プロジェクト」では、1,000ヶ所の出会いの場が作られている。スウェーデンでは「ミーティングプレイス」といった出会いの場が用意されている例もあります。

電子掲示板については、リアル（現実）と連動させていかないと、なかなか盛り上がりがないと思います。人・物を動かす、しっかりとしたホストが必要になります。

「誰が何を目的にやっていくのか」を明確にしていく必要があります。そうでないと皆が投稿するだけのモノになってしまう可能性が高くなってしまうため、ネット上の交流とリアルな交流を同時に仕掛けていく事業が有効となります。

山本副会長

「電子掲示板」といったインフラを整えることがキモになると感じるが、無料の Facebook でも良く、むしろ、編集者を置き市民から広く意見を募集することにお金をかけた方がいいのではないかとも思います。

市民活動センターは、ハードという場を中心に発想する傾向ある。また別な立場の方がやられた方が新しい価値の発掘ができると思います。

津富委員

電子上のファシリテーターといったイメージですね。

増田委員

文書表現についてなのですが、4の「知らせる」の概要の部分の表現だけ、後の方に「効果」に関するものを書かれているため、1～3の表現方法に合わせて始めに「効果」について書いた方が良いと思います。

具体的には、7行目「市民活動団体が抱える改題解決の糸口が見えたり、活動の幅がひろがったり」とあるが、これが効果にあたると思います。

取組の方向性の(1)市民活動センターの機能強化の部分で「市民活動センターが発行する情報紙へ各団体の活動の様子を掲載する」とありますが、これは現段階で100%可能ですか？

事務局

文書表現については、訂正します。

情報紙への掲載については、紙面の問題や特集の内容等の事情に合わせて掲載を行っていますので、100%とは言い切れませんが、掲載方法について現時点で特に問題は発生していません。

津富委員

「知らせる」の部分は、やったことのない人に働きかけることも大きいので、より多くの人に関心を持ってもらって、「やってみる」の手前の「やってみれるんじゃないか」という気分になっていただければと思います。

原田委員

まずは、関心を持ってもらうことが大切。

次に活動に共感してもらうことにつながる。

山本副会長

「場づくり」の指標づくりは難しいかもしれないのですが、ネット上では「アクセス数」

や「イイネの数」が把握できます。

「静岡時代」という NPO が県の委託で記事を掲載しているが、これも「静岡時代」という人格が見える気がすることで、読者が親近感を持てます。先程の議論の「リアル（現実）と連動」につながっていくと思います。

津富委員

全体的に「市民活動団体」と「NPO」という言葉が混在しているが、二つは同じ意味ですか？何か違いがありますか？

大西会長

意味が同じであれば、同一的な表現が良いと思います。

事務局

NPO にした場合、少し狭い捉えになるため、市民活動団体で統一します。

黒田委員

対象が「企業と NPO と地縁組織だけでいいのかな。」と疑問に思っています。全体的な表現に変えた方が良いのでは。

「交流の場づくり」のところで、市民活動に関わりたい、始めたいと思った個人に「こういう場があるんだ。」と知る機会を得ることが大切。他に何人か集まって、活動を始められる機会を得ることが大切です。

今まである市民活動を盛り上げていただくと同時に、新たに活動を始めたい個人や団体に「参加しやすいな。」って思っただき、参加を促すことも大切です。

また、参加するにあたり既存の市民活動団体が「怪しい集まりじゃないんだよ。」と言った健全性に関する広報も必要になります。

大西会長

4つ目の柱「知らせる」についての議論をまとめます。

まず、「こまめに場づくり」というアイデアを盛り込んでいきたいという意見がありましたが、これを取組の方向性の(3)として書くのか、(2)交流の場づくりに入れていくのか、決めさせていただきたい。

原田委員

個人的な意見ですが、全て2項目に統一できたら良いと思います。

津富委員

(2)交流の場づくりに「電子交流掲示板」もあるため、「こまめに場づくり」というアイデアもここに入れれば良いのではないのでしょうか？

大西会長

例えば、「こまめな場づくり」といったタイトルにして、色々盛り込むというのは。

津富委員

何処にという具体性はないのですが、すでに活動している団体を盛り上げるといった観点もあると思います。色々な人に参加のチャンスを与えている団体が評価されるような仕組みがあると良いと思います。

大西会長

顕彰にも関わってくるモノだと思います。どこに入れてきましょうか？

津富委員

「全員参加のまちづくり」のために役立っている団体は全て対象になるのではないのでしょうか。

ただし、次期計画の施策に合っている活動を展開していることが重要だと思います。

山本副会長

全員参加のキーワードが顕彰の中の指標の1つとして入ってくるのでは。

大西会長

これまでの指標（評価方法）は、件数という捉えが多かったが、今後は活動の「質」の評価も大切になる。それを格付けしたり、表彰したりすることも大切なのは。

指標の設定で「質」にまで踏み込むことは可能でしょうか？

事務局

質に対する指標設定は効果的であると思いますが、各市民活動団体の活動の質を確認する方法が難しいと考えます。

大西会長

質に対する指標設定については、次回の協議会で引き続き議論することとさせていただきます。

山本副会長

ネガティブな意見なので、盛り込むべきか分からないのですが、市民活動団体が増えていくことは良いのですが、「良き撤退」と言いますか、「発展的解消」ということをサポートしていくことも大切なのは。

たとえ団体が解散したとしても、それで「人生の終わり」とか、「地域に顔向けできない」とか、そういったことはなくて、むしろ、そういった新陳代謝を受け入れる文化を作ることが成熟の証なのではないのでしょうか。

「市民活動の森」という例えで言いますと「木が倒れても、また次の木が成長してくる。」といったイメージに合ってくるのでは。

数を増やす、前に進めることだけではないのではと思っています。具体的には、市民活動団体に関する指標を「新規に認証した法人数と解散した法人数の差が10%程度伸びていけば良しとする。」といった設定方法でも良いのでは。

大西会長

「深める」につながるお話ですね。

事務局

指標に関しては、別途、ご議論いただく際、改めてご検討いただければと思います。

黒田委員

新陳代謝の話は、例えば、「深める」の具体的な施策例（１）「NPO の組織基盤を固め、持続性を確保する取組」といった項目を、「NPO の組織基盤を固め、社会情勢に則したスクラップ・アンド・ビルドを経由し持続性を確保する。」という様に、発展的解消を含めた表現とする方法も考えられます。

大西会長

ありがとうございます。

それでは本日の議論を踏まえて、事務局の方で答申案を取りまとめるお願いをして、また次回の協議会で最終的な調整をさせていただきたいと思います。

事務局

事務連絡

- ・次回（第3回）市民活動促進協議会は、平成26年8月1日（金）15:30からの開催を確認。

（以上、会議終了。）